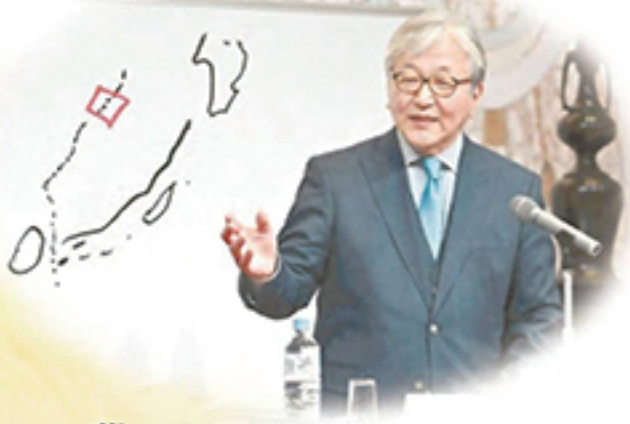


# 混沌の世界 平和とは

## 薬師寺 \* 奈良 まほろば塾



日本人の心のあり方を考える「薬師寺まほろば塾」(法相宗大本山薬師寺、読売新聞社主催)の奈良塾が2月15日、奈良市の薬師寺で開かれた。塾長を務める大谷徹英・薬師寺副住職の法話に続き、元外務事務次官で大阪大特任教授の大谷中三十二さんが「トランプ時代の混沌とした世界」と題して講演。対談では平和のあり方などを語り合い、約300人が耳を傾けた。

きょうは、平和に関する仏教的な考えを一緒に勉強しましょう。  
お釈迦さまの教えが記されたお経「法句経」の一部を紹介しましょう。「いかなるものも刀杖(武器)に死のき、いかなるものも死に怖れる、それゆえに、他人を身が身にひきくらべて、決して殺してはならぬ」決して傷つけてはならぬ」武器を造るの怖れと思っても、武器を持つと使いたくなってしまふ。人間はわがままな生き物で、自分がされたら嫌なことを平気でしてしまふ。大事なものは身が身にひきくらべて「考え」てしまふ。

日本では平和という「平和」がケチられているのではないかとネガティブなイメージを持たれがちです。しかし世界情勢が大きく変化しているなかから、平和を語らねばなりません。戦後世界の常識だった安全保障と経済のシステムが、やがてみよとじ、1948年大戦終結後、冷戦時代を経て、アジア太平洋地域を経て、2008年10月に外務事務次官大谷中三十二が、立命館大特任教授などを歴任し、現在は大阪大特任教授、読売新聞編集委員の経験豊富な

日本では平和という「平和」がケチられているのではないかとネガティブなイメージを持たれがちです。しかし世界情勢が大きく変化しているなかから、平和を語らねばなりません。戦後世界の常識だった安全保障と経済のシステムが、やがてみよとじ、1948年大戦終結後、冷戦時代を経て、2008年10月に外務事務次官大谷中三十二が、立命館大特任教授などを歴任し、現在は大阪大特任教授、読売新聞編集委員の経験豊富な

## 戦後の常識変化 冷静に

大谷中三十二 外務事務次官

大谷 外交で相手と向き合う際に一番大事にされていることは何でしょうか。  
大谷 相手の立場を考慮すること、こちらのことを相手にどう理解させるかということです。強引にこちらの言い分を通すと、相手の立場がなくなると長続きしない。同時に、こちらの主張をわかってもらうための理解が大事です。  
大谷 先生が考える「平和」の定義とは。  
大谷 戦争がない環境で安心して暮らしていること、これを国民に提供するのが政府の役割だと思います。  
大谷 平和とは見えることで和が生まれるもの。

つまり「平和」だと思えますが、この考えはいかがですか。  
大谷 平和という、メロデー(調べ)をあわせてハーモニーを作ることを連想します。国際協調とは国が調べを一緒にしていくということですから、正しいと思います。  
大谷 だじゃれみたいな話ですが、「調べ」でもありますが、先生は相手の話を聞く際、どういったスタンスなんでしょうか。  
大谷 敵愾が100%ぶつかり合うと解決しない。相手が本当に求めるものを理解し、互いの一番大事なことだけ合意するんです。

## 対談 相手と「チョウワ」を

おたに、つじょう、1948年、東京生まれ。17歳で立命館大に入山し、高田好雄(ごうけん)の薫習を受け、2008年10月から副住職。10年ほど前、大谷中三十二が、立命館大特任教授などを歴任し、現在は大阪大特任教授、読売新聞編集委員の経験豊富な

## 大谷徹英 「私が正しい」「主張争い呼ぶ

塾長

大谷 外交で相手と向き合う際に一番大事にされていることは何でしょうか。  
大谷 相手の立場を考慮すること、こちらのことを相手にどう理解させるかということです。強引にこちらの言い分を通すと、相手の立場がなくなると長続きしない。同時に、こちらの主張をわかってもらうための理解が大事です。  
大谷 先生が考える「平和」の定義とは。  
大谷 戦争がない環境で安心して暮らしていること、これを国民に提供するのが政府の役割だと思います。  
大谷 平和とは見えることで和が生まれるもの。



おたに、つじょう、1948年、東京生まれ。17歳で立命館大に入山し、高田好雄(ごうけん)の薫習を受け、2008年10月から副住職。10年ほど前、大谷中三十二が、立命館大特任教授などを歴任し、現在は大阪大特任教授、読売新聞編集委員の経験豊富な



## 食堂の仏画前 法要

冒頭、世界各地の紛争や自然災害などによる犠牲者の冥福を祈り、被災地の早期復興を願う法要が営まれた。会場の食堂で、文化勲章受章者の日本画家、田淵俊夫さんが手がけた本尊の仏画「阿彌陀三尊浄土図」(縦横各6尺)を前に、導師の生駒基道(なまきみち)住主ら僧侶5人が参加者とともに祈りをささげた。

奈良支所・相野ななせ、連絡係子、写真部・中原正純、編集部・産取知沙、デザイン・伊藤社一朗が担当しました。

- ※ 会員募集 「薬師寺まほろば塾推進の会」は会員を募集している。年会費(1口)は個人6000円、法人30万円。会員には薬師寺や各地で開催されるまほろば塾への優先申し込み、原則無料参加など、法人会員は研修・記念行事への講師派遣、薬師寺での旅行や研修の支援といった特典がある。
- ※ 次回も「奈良塾」 奈良塾を6月21日午後1時から、奈良市の薬師寺で開催。法話に続いて、落語家の林家たい平さんが講演。その後、大谷塾長と対談する。参加費3000円(推進の会会員は無料)。
- ※ 月例奈良まほろば塾、定例東京塾 大谷塾長が法話を行い、ゲスト講師による講演と対談もある。参加費は奈良1000円、東京2000円(推進の会会員は無料)。午後1時開講。日程、講師は次の通り。
  - ◇奈良▽5月17日=東京大准教授、上原亮一さん▽7月19日=京都大名書教授、久崎一史さん
  - ◇東京▽5月26日=シンガー・ソングライター・半崎美子さん
- ※ 出張講座 薬師寺まほろば塾は、東京、大阪、神戸、和歌山で「法話とお写経の会」を開催している。大谷塾長による法話を聴いた後、写経をする。参加費は4000円(納経料2000円含む、推進の会会員は納経料のみ)。日程は次の通り。受け付け開始は午後1時(和歌山は午後1時10分)。
  - 【東京】フロントプレイス日本橋10階(東京都中央区)▽4月17日、6月23日
  - 【大阪】読売大阪ビル地下1階「ギャラリーよみうり」(大阪市北区)▽6月18日
  - 【神戸】よみうり神戸ホール(神戸市中央区)▽6月16日
  - 【和歌山】和歌山県民文化会館(和歌山市)▽5月14日、8月10日

提供・読売新聞社